

校内体制の充実による不登校の未然防止の対策について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から「集団活動の困難」、「感情のコントロール」、「自己理解」等に課題があり、不登校傾向が見られた。中学校入学後もこれらの課題から、授業に集中して取り組めなくなったり、周囲とトラブルが増えたりして、自己肯定感が下がり、学校に対して前向きな考えがもてなくなった。

具体的な取組

○校内別室の活用

校内別室（個室）を活用し、落ち着ける環境の中、支援員や教科担当の教員による学習の補充を行った。

一部の教科で課題の提出や小テスト・定期考査を受けることもできた。



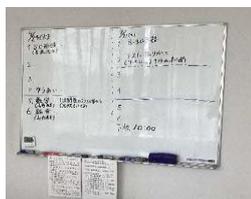
○SCやSSWによる支援

本人のカウンセリングやSST、保護者との定期的な面談を実施した。

また、SSWは保護者との面談や出身小学校への聴き取りなどを行い、情報を校内で共有した。さらに、当該生徒の通院に同行し特別支援教室へつなぐことができた。

○生徒の対応情報の可視化

登校後、ホワイトボード、登校報告書を活用し、学年教員、支援員、不登校対応巡回教員などと一日の予定を確認し、必要な配慮を事前に検討している。



○校内委員会の開催

週1回支援委員会を開き、当該生徒の情報を共有し、支援内容について検討した。また、SCやSSWの役割等も明確にし、連携して支援に当たれるようにした。

参加者：校長・生活指導主任・各学年教育相談担当・養護教諭・不登校対応巡回教員・SC・SSW

成果

当該生徒の自己理解が進み、自分の気持ちを教員に伝えられるようになった。また、SCやSSWと連携することで、多面的に当該生徒の支援方法を検討し、保護者の理解を得て、医療機関と連携したサポートにつなげることができた。

課題

教室復帰に向けて、当該生徒の支援と併せ、周囲（クラス・学年）生徒の理解を進めていく必要がある。

不登校対応巡回教員と連携した不登校生徒への校内支援

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校2年生であり、小学校在籍時から不登校傾向が見られた。入学当初は順調に登校できていたが、徐々に欠席が目立ち始め、夏休み明けからは再び不登校になった。学校との連絡や家庭訪問にも反応がなく、保護者と連携して支援の手だてを検討した。

具体的な取組

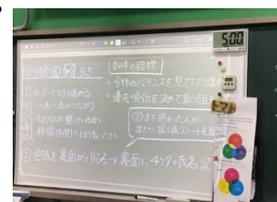
○不登校生徒に対する支援体制の確立

週1回、支援会議（教育相談部会）を行い、利用生徒に関する情報共有を密に行っている。不登校対応巡回教員が参加できるように日程を調整し、参考となる他校の支援策や、活用できそうな連携機関と情報を共有し、具体的な支援策を検討している。

○教室復帰を目指した学習支援

不登校対応巡回教員から共有した支援策を取り入れ、校内別室に通室する生徒に授業の板書やワークシート、明日の時間割を配信している。

写真：生徒に送られている板書の一例



○スクールカウンセラーとの連携

学年教員や不登校対応巡回教員と相談し、原則、校内別室に通室している生徒を対象に、定期的にSCとの面談を実施している。

面談では、家庭での状況や生徒の困り感、特性を把握・分析し、支援に活用している。

○個別の学習支援

生徒と保護者が希望した場合、校内別室指導支援員と不登校対応巡回教員、教科担当教員が連携し、別室での個別の学習支援を行っている。

自主学習が難しい生徒に対しては、一対一の学びが効果的であり、達成感につながっている。

成果

不登校対応巡回教員から共有した支援策を参考に、校内での支援体制の確立や不登校生徒に対する学びの保証や、校内別室の環境整備を進めることができた。継続的な個別支援により、当該生徒の出席日数の増加や学習意欲の向上を見取ることができた。

課題

週1回の不登校対応巡回教員の勤務に合わせて必要な情報を効率よく共有する体制を構築する。

他校の実践を生かした不登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、発達に特性があり、他の児童や授業になじめず、小学校 5 年生頃から不登校となった。

入学当初から別室での支援とフリースクールへの通学を続けてきた。精神的に安定せず、入院していたこともある。

具体的な取組

○校内別室の環境整備

不登校対応巡回教員から他校の実践を共有し、環境整備を行っている。生徒自身に一日の過ごし方を記入する時間割ボードなどを作成した。

名前	曜日	1	2	3	4	5
③			SSR	自習		自習
③	11:50				自習	
③	12:30				自習	SSR
③	13:05				自習	SSR
④	13:45				自習	SSR
①						自習
①						自習

○校内別室での学習支援

質問に回答したり、励ましたりしながら、生徒のモチベーションを維持できるように学習支援を行っている。

不登校対応巡回教員から聞いた他校の別室利用生徒の取組を参考に、学習方法を取り入れたり、自分に合った学習方法を考えたりするきっかけとなった。

○支援に関する助言

別室での取組内容や不登校対策委員会の運営方法について、不登校対応巡回教員から他校の実践等の助言を得ている。別室での活動内容に集団での活動を取り入れたり、不登校対策委員会の中でケース検討を行ったりと活動が充実した。

○家庭訪問の実施

学校に長期間登校できていない生徒の家庭へ出向き、配布物のポスティングを継続的に行う計画をしている。特に不登校生徒対象のイベントや学校行事などについては、直接話をするこで生徒の興味・関心が高まることを期待している。

成果

他校の実践を知り、相談しながらよりよい取組を取り入れることができた。当該生徒も不登校巡回教員から情報を聞き、自分の思いを伝えることで、別室での取組が当該生徒の自信になっていくことに喜びを感じている様子であった。

課題

巡回教員は、週 1 回の勤務かつ祝日等が重なる場合もあるため、校内での役割を明確化し、情報を蓄積しておく必要がある。

不登校の未然防止のための関係機関との連携

不登校生徒の状況

対象生徒は、現在中学校 1 年生である。

学習の定着に課題があり、夏季休業前から欠席が目立つようになった。夏休みの宿題を終わらせることができず、「みんなの前で発表するとドキドキする」、「クラスメイトの視線が気になる」と訴え、登校しぶりが見られた。

具体的な取組

○小学校の担任から聞き取り

不登校対応巡回教員の助言を受け、現担任が小学校に連絡し、当該生徒の小学校での学習状況などの情報を共有した。

また、臨床心理士の巡回相談に観察をお願いした。

○校内別室の活用

小学校からの聴き取りや本人の訴えから、国語と数学への苦手意識が強いことが把握できたため、校内別室での個別支援を開始した。校内別室での学習が安定し、在校時間が徐々に長くなっていった。



○生徒のペースで登校

自宅にこもりがちな当該生徒の現状を踏まえ、登校日数を増やすことを優先し、不登校対応巡回教員も連携して短時間登校を促した。

不安が強い場合は、いつでも下校できるように説明し、生徒のペースで登校日数を増やすことができた。

○関係機関との連携

不登校対応巡回教員から共有した他校の支援体制を参考に、ケース会議を計画している。

今後の支援について、医療機関や S C、S S W と連携・相談し、生徒に合った支援を検討していく。

成果

不登校対応巡回教員の助言を参考に、校内別室やカウンセリング室など、教室以外の居場所を確保した。その結果、自分のペースに合わせて登校できるようになり、欠席日数を抑制することができた。

課題

教室での授業参加ができるように、計画的に個別指導から集団指導に移行していく必要がある。

不登校対応巡回教員による別室支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 3 年生である。

小学生のときから不登校傾向があり、昨年度から校内別室の利用を開始し、学級復帰を目指している。

具体的な取組

○不登校対応巡回教員による相談

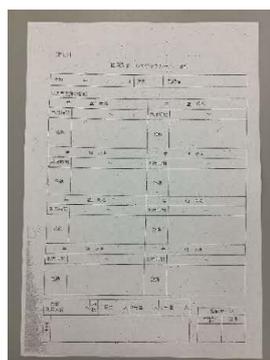
不登校対応巡回教員の巡回日に教育相談を実施している。進路関係の相談も対応できるため、支援員だけでは難しい内容の相談にも応じることができる。

○生徒同士の交流を促す

不登校対応巡回教員や校内別室指導支援員が間に入り、生徒同士のコミュニケーションを促すことで、不登校傾向の生徒の学校登校の意欲を高めることができた。

○関係者間の情報共有

不登校対応巡回教員や別室指導員の先生、SC、養護教諭とも紙媒体の日報を通じて当該生徒の日々の様子などを情報共有している。



○教員が連携した学習支援

教科担当の空き教員だけではなく、不登校対応巡回教員が指導可能な教科についても当該生徒に指導を行っている。

また、生徒が持参した参考書などの質問も随時受け付けており、学習面で遅れが出ないように配慮している。

成果

不登校対応巡回教員の助言を取り入れることで、当該生徒が安心して過ごすことができる環境を整備することができた。学習支援だけでなく、進路に関連した相談など、具体的な実践につなげることができた。

課題

教室で授業を受けることが部分的にできたが、完全に復帰はしておらず、組織的な支援を継続する。